

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H04423

研究課題名（和文）上座仏教圏における高齢者のウェルビーイングと宗教実践

研究課題名（英文）Religious practices and well-being of the elderly in Theravada Buddhist regions

研究代表者

速水 洋子（Hayami, Yoko）

京都大学・東南アジア地域研究研究所・教授

研究者番号：60283660

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、まずカンボジアやミャンマーのようにこれまで高齢者ケアについて、またタイでは高齢者ケアに仏教が組織として関与を深めていることなどの実態が明らかになった。ケアのダイヤモンドとは別次元で、高齢期や終末期における寺院の役割の重要性が照射された。また高齢者の宗教実践が、生涯を通じたジェンダー役割の故に男女で異なり、特に俗人女性の高齢期における教学や瞑想、積徳や読経などへの参加が顕著であることとともに、その内容が同じ上座仏教圏でも異なることが比較により検証された。加えて、宗教の枠を超えて功德と自利・利他の観念が、ケア者の側でも高齢者自身の側でも重要な要素であると提起された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的には、同じ上座仏教社会でも俗人、特に俗人女性の関与する仏教の教学や実践の在り方が大きく異なることは今後更に詳細に比較検討すべきことである。また、普遍的なケアの概念と、宗教における功德や自利・利他の概念がどの様に重なり、異なるのかという点も今回集めた事例から更に考察を深めることができるだろう。本研究の過程で日タイを比較して考察する契機があり、特に終末期の高齢者に対する医療以外のケアや終末の過ごし方のイメージが両国で大きく異なること、日本でより豊かな高齢期への指針となりうること、またこれらを追うためには学術を越えた多分野の協働が必要であることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：The study revealed the reality of elderly care in countries such as Cambodia and Myanmar, where such information had been so far lacking, whereas in Thailand where aging is at a far more advanced stage, Buddhist organization (the sangha) is coming forward in its involvement in the care of the elderly. The importance of the role of temples in old age and at the end of life was shown to be on a different dimension from the “care diamond”. The study also verified that the religious practices of the elderly differ between men and women due to gender roles throughout life, and that secular women's participation in teaching, meditation, praying and chanting sutra in old age is particularly significant, and that the content of these practices differs even within the same Theravada Buddhist community. In addition, it was suggested that the concepts of merit, self-interest and altruism are important for both caregivers and the elderly themselves beyond the framework of religion.

研究分野：文化人類学

キーワード：高齢者 老いの文化 宗教実践 ケア 上座仏教圏

1. 研究開始当初の背景

上座仏教圏のタイ、ミャンマー、ラオス、カンボジア、そしてスリランカでは、タイを筆頭に少子高齢化が徐々に進行しているが、国の政策をはじめとする高齢者福祉システムが十全に機能しているとは言えない。そうした中で特段に高齢者ケアとして言及することはなくとも、上座仏教圏では日常的に寺院に集まるのは高齢者である。高齢者ケア施設などが十分整っていないなかで、寺院をはじめとする宗教施設が高齢者に居場所を提供し、高齢期に入った俗人にとって仏教実践は生を全うするうえで重要性を増す。同地域における従来の高齢者研究では家族やコミュニティにおける高齢者のケアが中心で、宗教組織の役割や、高齢者の生における宗教について特段に注目されてこなかった。既存研究では、宗教のソーシャルキャピタルとしての側面をとらえたもの[櫻井・道信共編 2010、櫻井他編 2015]や、HIV 陽性者のケアにおいて宗教実践を扱うもの[田辺 2008]等があるが、高齢者に特化したものではない。高齢者のケアや日常を理解するなかでは、宗教は常に介在しながらも、前景化されてこなかった。

一方、近年仏教組織の役割や教えは様々な圧力や変動に晒されてきた。経済発展のなかで寺院や仏教実践がかつての機能を失いつつあると指摘されて久しい。仏教サンガ(僧院組織)は俗人の敬意の対象であるはずが、僧侶の不道徳行為が取りざたされて人々の敬意を失い、少子高齢化とも相まって人々が集まらなくなった僧院を何とか活性化しようとする新たな試みもみられる。仏教の社会との関わりについては、開発僧の研究で出家者の社会との関わりが論じられてきた[Pinit 2012、岡部 2014]。俗人に積徳の機会をもたらす福田としての出家組織と世俗社会とはどのように関わるべきかを問う研究もある[藏本 2014]が、これらは宗教組織側に視点を置く。

宗教組織側で高齢化社会にどの様に対応しており、それは従来の宗教と社会の関わりを理解に何か変化をもたらすものなのか、そしてライフサイクルの高齢期に宗教は個々にどの様に実践されるのか。それはまたジェンダーや経済状況、そして身体状況等によってどの様に異なるのか。高齢者が日常の生を全うするなかで広義のウェルビーイングに宗教がどの様に位置づけられるのか。老いの医療化が進行するなかで、上座仏教の教えは当事者や家族によってどの様に位置づけられるのだろうか。それは同じ思想を共有しない他の宗教ではどのように異なるのだろうか。

こうした背景を踏まえて、下記のような問いを立てた。

(1) 社会の高齢化に対して宗教や実践にどのような変化がみられるか、瞑想実践などの在家者の宗教実践にどのような変化があり、僧院などの宗教組織はこれにどの様に対応しているのか。そうした実践にどのような男女その他の差異がみられるか、特に女性在家高齢信徒の増加に対してどのような動きがみられるか。

(2) 上座仏教諸国において宗教組織が高齢者ケアにどのような役割を果たしているか、宗教組織の側から社会にどの様に関与しているか。高齢者ケアを担う領域は、先進国を中心に官(行政)・民(市場)・協(市民)・私(家族)の四領域で説明されるが、上座仏教社会における宗教はいずれの領域とも重なりうる。したがって宗教に着目することは先進国の高齢化社会とは別の可能性を示すことになる。仏教に限定することなくキリスト教や華人系宗教についても検討する。ど

(3) 高齢者自身やそのケア者にとっての宗教実践、高齢期の生における宗教の役割について終末期を含めて明らかにする。宗教そのものが高齢化に対してどのように救いを示し、人生の終わりに近づいた人が宗教に何を求めるのか。

2. 研究の目的

(1) 先進産業社会の高齢者ケアは、上述のケアの四領域で担われるものとして把握されてきた。宗教による高齢者ケアへの関わりはこの四領域を跨ぐ形で行われるため、上座仏教社会で宗教に着目することでケアの議論における既定の四領域とは異なるケアの分布を明らかにする。

(2) 各国の宗教組織が高齢化とともにどの様に変容・適応しているかを検討する。それは、宗教実践や制度の現状を考える上で重要な問いとなる。即ち高齢化を通じて宗教実践や宗教組織の現在を検証する。

(3) 高齢期の生き方やケアを含むウェルビーイングの在り方と宗教がどのような相互関係にあるのか、現代を生きる個々人が人生の最期に宗教に何を見いだすのかを問うことは、宗教が社会にあってどの様に生きられているのか、人の一生をどのように形作るのかを問い、宗教そのものを相対化して再考することにつながる。

(4) 社会的には高齢者ケアのオルタナティブな形を示すことで超高齢化する日本社会にも示唆を与えることとなる。

3. 研究の方法

コロナ禍の期間は既存文献と問題意識を共有した。文献の内容はメンバーはエイジングと宗教に関する文献、タイや東南アジアの高齢者ケアに関する文献、高齢者と宗教、宗教とケア等に関わる民族誌的資料、ケア論や倫理研究等で、理論枠組と実態報告に関わるものである。

2年度目後半から、各メンバーは現地調査を実施し、その結果を持ち寄り報告、議論した。参加メンバーはいずれも上座仏教社会で宗教あるいはケアをめぐり、調査の経験が豊富で、現地社会の実情を知悉する。宗教組織や当事者に対して、踏み込んだ聞き取り調査や文献探索を実施できた。分析は量的な解析よりも文化・社会的文脈に沿った解釈・理解を中心とする民族誌的な手法により記述・分析し、各場面での宗教実践と高齢者の生の相互関係を浮き彫りにするものだった。また、階層や家族構成、ジェンダーなどの差異に考慮するとともに、時間的な深度を考慮して文献や映像など多様な資料を用いてその展開過程を追いつつ、現状を文化・社会や政治的展開の文脈において理解した。

年に一度の報告会の他、異分野や他地域・異なる宗教の研究者とケアや積徳をめぐって議論する機会や、タイの研究者とのサーベイ調査も実施した。

但し、2年度目前半まではコロナ禍により調査渡航も顔を合わせての研究会も実施が不可能で、文献リストを共有して読み進め、オンラインで研究会を実施した。メンバーの中には、既存の現地ネットワークを活用してSNSなどで聞き取りをする例もあった。メンバー同士で互いの調査地を実見することも計画していたが、コロナ禍明け後は自身の調査地をカバーするのに精一杯で残念ながらあまり実現できず、唯一、研究代表者がメンバーの高橋と共にカンボジアで寺院における特に女性の高齢者が起居する寺院を訪問する機会を得た。

4. 研究成果

(1) **高齢者ケアの実態** メンバーは夫々の国で各国高齢者政策を整理し、高齢者介護に関する新たな取組についてネット情報等も取り込んで追跡あるいは、現地とオンラインでインタビューを試みた。また、これまでそれぞれフィールドとしてきた農村や都市で、高齢者ケアがどのように実践されているか実態を把握することができた。高橋はカンボジアにて2022年度早々からサバティカルを利用して一年間カンボジアで長期滞在調査を行い、コロナ禍を経験した現地の状況も踏まえ、農村の年中行事・布施行事の観察・参与観察、華人系クメール人の行事（清明節）や年忌供養の参与観察、得度式の観察、僧侶への聞き取り（出家動機・今後の還俗予定等）などを進め、農村高齢者の生活、農村社会の変化を踏まえて寺院やコミュニティにおける高齢者の宗教実践を調査、寺院委員（俗人）や寺院が一部関わっている貧困家庭支援のしくみについての予備的な聞き取りを実施した。小林は近年隆盛をみる有名寺院での高齢者の実践の調査も含め、カンボジア農村のこれまでほとんどこのテーマに関する情報がなかったところから、貴重な情報が収集できた。

(2) **僧院組織の役割** タイのバンコクに公務で2022年に3か月滞在した速水は、その間に情報収集した。同国サンガ（僧院組織）が高齢者ケアにおける寺院や僧侶の役割を強化していることを、各仏教系の大学の僧侶による論文のなかで「高齢者の安寧と仏教」といったテーマに関わるものが2000年代後半から急増していることや、そのなかでBWR（baan-wat-rat 家・寺院・国または行政）というスローガンで、まさに家族と仏教そして国家が高齢者ケアを担うものとして強調されていることを見出した。まさにケア・ダイヤモンドとは異なるケアの担い手の組織化である。このほか、北部タイやバンコク近郊にて高齢者の活動の場になっていたり、困窮した高齢者に生活の場を提供している仏教寺院を訪ね、僧侶や寺院が世俗の高齢化に対応しているかその実態を検証した。

(3) **功德および自利・利他の概念** メンバー全員が何らかの形で関心を共有したのが、高齢者へのケアおよび高齢者自身の宗教実践の両面から考える功德や自利・利他の概念であった。中村はスリランカの高齢者施設のケア者と高齢者を中心に利他と自利の概念について考察した。片岡はタイ華人の善堂における功德に関わる儀礼の調査、片岡は華人系タイ人の善堂における功德の倫理を追究し、善堂系の寺院や病院における終末期ケアや障害者・高齢者ケアに関わる場面から、これらが善堂を介した再分配・還流のメカニズムによってなりたっていることを考察した。

2023年3月1日には、科研報告会を実施した後、インドネシアのイスラーム研究者である足立真理氏を迎え、『インドネシアにおける義務的喜捨ザカートの宗教実践—イスラームの功德概念に関する考察』と題して発表をしていただき、本科研におけるメンバーが共有する功德や自利・利他への関心をイスラームの事例と比較することができた。宗教における功德や自利・利他の概念は、より広い意味でのケアの概念とどの様に切り結ぶのか、今後更に議論を深

めるべき論点である。

(4) **高齢女性による仏教実践** メンバーの高橋（カンボジア）、飯國（ミャンマー）、木曾、速水（タイ）、はいずれも高齢女性の世俗信徒による宗教実践に焦点を当てており、男性の様に受戒して出家することができない女性として高齢期に功德の実践に様々な形で集中することを明らかにしている。木曾は、東北タイ農村の高齢者特に女性の日常的宗教実践について調査し、寺院での活動の参与・非参与、その動機や背景について聞き取り調査を実施した。寺院が高齢者のウェルビーイングに何を提供するのか、家庭内の事情やジェンダー差に留意して検討することとなった。高齢化の進む東北タイ農村で、従来は家族に囲まれて持戒行に勤しむなど仏教実践に没頭できたはずの高齢女性が、家族の変容に伴いケアの責任から解放されない状況のなかで持戒行を遂行していることを考察した。飯國は、ミャンマー調査がコロナ禍に加え2021年2月に発生したクーデターにより困難となり、一時途絶えた現地との連絡が復旧し、SNSを介して政治との関係を中心にサンガの変化や知り合い高齢者の動向把握を行い、自宅や寺院での読経と教学がどの様に行われているかオンラインで詳細に聞き取った。また、高橋は、カンボジアの女性修行者が起居する寺院での聞き取りにより、高齢女性が寺院でどの様にケアされ、仏教実践を行うかを調査した。速水は、北タイの高齢者施設の女性入居者たちが、限られた空間のなかでどの様に工夫して夫々の形で仏教実践を行っているかをインタビューと観察に基づいて論じた。

初年度9月に、高橋が国際ジェンダー学会の年次大会でジェンダー学と宗教研究を架橋するシンポジウムを企画し、速水が発表者として登壇し、タイ高齢者施設の女性入居者たちについて報告した。

(5) **多分野・他科研・他事業との共同** 2021年7月に、科研費基盤B「地域に根ざした介護予防プログラムの構築—一日タイ比較研究から実践的介入への挑戦」と合同で「タイにおけるケアと仏教実践」ワークショップを実施し医療や公衆衛生の専門家とともに、終末期や高齢期に関する考え方、寺院や仏教実践の役割などを検討した。石本恭子氏は、日タイの高齢者による心の安寧を求める活動の比較から日本では身体を動かす動的な活動が多いのに対し、タイでは瞑想や読経などの静的な仏教実践が重視されること、マヒドン大学の Kwanchit Sasriwongsaroj 氏は、そうした仏教実践は個々人の私的な場面よりも寺院での社会的な場面での実践がより効果的であると論じられた。また鈴木勝巳氏はタイのエイズ・ホスピス寺院における終末期患者のケアについて発表し、寺院という場が医療のみではない終末期ケアの場として機能していることが論じられた。いずれもタイに関する発表から、高齢期における個々の仏教実践の重要性が確認されるとともに、寺院がそれを社会的なつながりの中で実践する場や、医療とは全く別の基準で終末期のケアをする場ともなっている事が確認された。

また、タイで高齢者ケアをめぐる社会状況を調査してこられたタマサート大学の Duangjai Lortanavanit 氏が学振の BRIDGE プログラムにて一か月来日し、現地タイや日本で調査に同道し、日本の高齢者ケアをめぐる現状の調査を本科研のサポートを得て実施する一方で、タイの高齢者ケアの現状について専門の立場から聞く機会となった。

これらは合わせて日タイを比較して考察する契機となり、特に終末期の高齢者に対する医療以外のケアや終末の過ごし方のイメージが両国で大きく異なること、日本でより豊かな高齢期への指針となりうること、またこれを追究するためには学術を越えた多分野の協働が必要であることが明らかとなった。

(6) **上座仏教圏各国の仏教実践・俗人による教学の相違** 飯國はミャンマーの現地情勢から渡航は困難のため、高齢化の進展状況について基礎的情報を踏まえたうえで、高齢者の日常の実践の解明に向けて、既に良好な関係を築いている70代女性と高齢期の日常的仏教実践について詳細な聞き取りをオンラインで行った。小林は近年カンボジアで盛んになっているウィパッサナー瞑想の参加者の多くが60代以上であることから高齢者にとってのウェルビーイングと死の迎え方について考察。高橋はカンボジアの仏教寺院における高齢出家者や女性修行者及び生涯学習として経典を学ぶ女性達への聞き取りから高齢期に教学を学び修行することの意義を考察した。ミャンマーの事例で一般の俗人女性の教学知識は、他国の事例と比較して顕著であることが認められ、同じ高齢期の仏教実践でもその内容が大きく異なることが明らかになった。

秋には現地研究者を交えたワークショップを予定していたが、スケジュールと予算の両要因によりこれを実現することはできなかった。了後となるが2024年中に学会発表を実施し、まとまった成果としてとりまとめるべく相談を進めた。

〔引用文献〕

岡部真由美 2014『「開発」を生きる仏教僧：タイにおける開発言説と宗教実践の民族誌的研究』

藏本龍介 2014『世俗を生きる出家者たち—上座仏教徒社会ミャンマーにおける出家生活の民族誌』

- 櫻井義秀・道信良子共編著 2010『現代タイの社会的排除 教育、医療、社会参加の機会を求めて』
- 櫻井他編 2015『アジアの社会参加仏教』]
- 田辺繁治 2008『ケアのコミュニティ：北タイのエイズ自助グループが切り開くもの』
- Pinit Lapthananon 2012 Development Monks in Northeast Thailand.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 22件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 Hayami Yoko	4. 巻 24
2. 論文標題 Labour of Devotion: Material Construction and Charisma of Sainly Monks in the Myanmar-Thai Border Region	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Asia Pacific Journal of Anthropology	6. 最初と最後の頁 18-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14442213.2022.2117405	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 飯國有佳子	4. 巻 101
2. 論文標題 忘れられた『アジア最後のフロンティア』: クーデターから20カ月を経たミャンマーの現状と今後	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神奈川大学評論	6. 最初と最後の頁 160-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中村沙絵	4. 巻 2月号
2. 論文標題 ケアの文化人類学が現代日本にもたらすもの	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 群像	6. 最初と最後の頁 279-283
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Rongling, Ye, Taisuke Kodo, Yoshihiro Hirooka, Hor Sanara, Kim Soben, Satoru Kobayashi and Koki Homma.	4. 巻 14
2. 論文標題 Educational Trials to Quantify Agronomic Information in Interdisciplinary Fieldwork in Pursat Province, Cambodia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/su141610007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 飯國有佳子	4. 巻 62
2. 論文標題 くらしの中で、死を見つめる：ミャンマー上座部仏教徒社会における高齢者のウェルビーイングと宗教実践	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大東文化大学紀要 人文科学	6. 最初と最後の頁 323-337
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村沙絵	4. 巻 125-2
2. 論文標題 コーラ・ダイヤモンドの言葉が響くとき	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 國學院雑誌	6. 最初と最後の頁 18-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村沙絵	4. 巻 9月号
2. 論文標題 フェミニスト・エスノグラフィと「聞き書き」の実践	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 277-300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯國有佳子	4. 巻 62
2. 論文標題 くらしの中で、死を見つめる：ミャンマー上座部仏教徒社会における高齢者のウェルビーイングと宗教実践	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大東文化大学紀要 人文科学	6. 最初と最後の頁 323-337
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村沙絵	4. 巻 125-2
2. 論文標題 コーラ・ダイヤモンドの言葉が響くとき	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 國學院雑誌	6. 最初と最後の頁 18-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村沙絵	4. 巻 9月号
2. 論文標題 フェミニスト・エスノグラフィと「聞き書き」の実践	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 277-300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hayami, Yoko	4. 巻 24
2. 論文標題 Labour of Devotion: Material Construction and Charisma of Saintly Monks in the Myanmar Thai Border Region	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Asia Pacific Journal of Anthropology	6. 最初と最後の頁 18-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14442213.2022.2117405	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 飯國有佳子	4. 巻 101
2. 論文標題 「忘れられた『アジア最後のフロンティア』: クーデターから20か月を経たミャンマーの現状と今後」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神奈川大学評論	6. 最初と最後の頁 160-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木曾恵子	4. 巻 56
2. 論文標題 「タイにおけるソーシャルメディアから広がるフェミニスト・ムーブメントの可能性 #MeToo以降のハッシュタグ・フェミニズムに注目して」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『研究年報 民族と宗教』（宮城学院女子大学キリスト教文化研究所）	6. 最初と最後の頁 29-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村沙絵	4. 巻 2023年2月
2. 論文標題 ケアの文化人類学が現代日本にもたらすもの	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 群像	6. 最初と最後の頁 279-283
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rongling, Ye, Taisuke Kodo, Yoshihiro Hirooka, Hor Sanara, Kim Soben, Satoru Koabyashi, and Koki Homma.	4. 巻 14
2. 論文標題 Educational Trials to Quantify Agronomic Information in Interdisciplinary Fieldwork in Pursat Province, Cambodia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/su141610007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 片岡樹	4. 巻 10
2. 論文標題 「国民国家時代のメダン・ベナン・ブーケット・コネクション 華僑華人移民と東南アジア現代政治」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 マレーシア研究	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tatsuki Kataoka	4. 巻 22-1
2. 論文標題 "Less than Gods?: Gods and Yokai in the Ushioni of Kikuma, Ehime Prefecture."	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese Review of Cultural Anthropology	6. 最初と最後の頁 177-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木曾恵子	4. 巻 21-1
2. 論文標題 「書評 友松夕香、『サバンナのジェンダー：西アフリカ農村経済の民族誌』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 オンラインジャーナル 地域研究 (JCAS Review)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林知	4. 巻 59-1
2. 論文標題 「序 <特集>カンボジア西南部ポーサット州農山漁村の変貌 資源、市場経済、コネクティビティ」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 5-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/tak.59.1_5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林知	4. 巻 59-1
2. 論文標題 「生業からみた開発体制下のカンボジアの農村変容 ポーサット州での広域調査に基づく一考察」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 18-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/tak.59.1_18	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村沙絵	4. 巻 86-2
2. 論文標題 道徳哲学と民族誌の「もう1つ」の交わり方:きれいな分析を拒む現実に留まること/逸れること	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 250-268
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jjcanth.86.2_250	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi, Satoru	4. 巻 28(3)
2. 論文標題 Cultural innovation in the face of modernization: A study of emerging community-based care in rural Cambodia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Southeast Asia Research	6. 最初と最後の頁 231-247
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/0967828x.2020.1816490	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 片岡樹	4. 巻 13
2. 論文標題 崇る中世 愛媛県菊間町の戦国落城伝説	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代民俗学研究	6. 最初と最後の頁 21-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡樹	4. 巻 85(4)
2. 論文標題 神様未満? 愛媛県菊間町の牛鬼からみた神と妖怪	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 623-639
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村沙絵	4. 巻 85(4)
2. 論文標題 人道主義的な贈与のポリティクスと倫理的想像力 スリランカにおけるコロナ禍での外出禁止令発令時の支援を事例に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 672-690
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura, Sae	4. 巻 29(1)
2. 論文標題 Fiction in the making of intimacy in old age: a case from Sri Lanka	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Contemporary South Asia	6. 最初と最後の頁 37-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09584935.2021.1884660	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木曾恵子	4. 巻 54
2. 論文標題 タイ地方農村における介護の社会化と高齢者のウェルビーイングに関する予備的考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『研究年報 民族と宗教』(宮城学院女子大学キリスト教文化研究所)	6. 最初と最後の頁 69-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木曾恵子	4. 巻 26
2. 論文標題 進むタイの少子高齢化と家族 農村部における新たなケア文化の創造	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『人間情報学研究』(東北学院大学人間情報学研究所)	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hayami, Yoko	4. 巻 28(4)
2. 論文標題 (書評) Felicity Aulino. Rituals of Care: Karmic politics in an aging Thailand. 2019.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 South East Asia Research	6. 最初と最後の頁 488-491
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/0967828X.2020.1826756	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美和	4. 巻 18
2. 論文標題 シンポジウム2 報告：幸福のジェンダー学 宗教実践の現場からエンパワーメントを考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際ジェンダー学会誌	6. 最初と最後の頁 156-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 小林知
2. 発表標題 「カンボジアの仏教」 『連続仏教講座 世界の仏教を学ぶ Part2』
3. 学会等名 公益財団法人 仏教伝道協会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小林知
2. 発表標題 「現代カンボジアにおける上座部仏教の社会的位置」 『世界仏教文化研究センター セミナー』
3. 学会等名 龍谷大学世界仏教文化研究センター
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋美和
2. 発表標題 「カンボジアにおける老年俗人のアピダンマ教学学習が示唆するもの」
3. 学会等名 「宗教と社会」学会第29回学術大会（長崎大学 / オンライン開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中村沙絵
2. 発表標題 社会福祉における「コミュニティ」概念の検討：スリランカにおける高齢者の扶養とケアをめぐる取り組みに注目して（共通論題パネル）
3. 学会等名 第34回日本南アジア学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中村沙絵
2. 発表標題 繕(つくる)いのケア スリランカ都市部の終末期介護を事例に
3. 学会等名 日本文化人類学会第55回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 速水洋子
2. 発表標題 「タイにおける高齢化とケア」京大アジア・アフリカ塾
3. 学会等名 京大アジア・アフリカ塾（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 片岡樹
2. 発表標題 文化人類学教育の現場で考える日本文化 国外フィールドから見た『逆さ読み』の日本文化論
3. 学会等名 韓国日本文化學會第58回國際學術大會招請講演（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木曾恵子
2. 発表標題 進むタイの少子高齢化と家族 農村部における新たなケア文化の創造
3. 学会等名 東北学院大学人間情報学研究所 第24回講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋美和
2. 発表標題 シンポジウム趣旨説明：幸福のジェンダー学 宗教実践の現場からエンパワーメントを考える
3. 学会等名 国際ジェンダー学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋美和
2. 発表標題 カンボジアにおける老年俗人のアビダンマ教学学習が示唆するもの
3. 学会等名 「宗教と社会」学会第29回学术大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hayami, Yoko
2. 発表標題 基調講演 Stories of Life and Care of the Self in the Margins of Northern Thailand: Voices from a State Home for the Elderly
3. 学会等名 Taiwan Conference on Anthropology and Ethnic Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 速水洋子
2. 発表標題 上座部仏教社会タイの高齢者施設における女性と宗教実践
3. 学会等名 国際ジェンダー学会シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 片岡樹
2. 発表標題 東南アジアで再発見する四国ー地域社会の宗教と政治を逆さ読みするー
3. 学会等名 第56会日本文化人類学会研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 木曾恵子
2. 発表標題 出稼ぎからキャリアの模索へー東北タイ農村女性のライフコース選択にみる自立と依存
3. 学会等名 国際ジェンダー学会2022年大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 木曾恵子
2. 発表標題 ケアをシェアするー東北タイ農村におけるパンデミック禍の子(孫)育て
3. 学会等名 国際ジェンダー学会2022年大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hayami, Yoko
2. 発表標題 Women in Southeast Asia from High Modernity Onwards
3. 学会等名 Anthony Reid and Southeast Asian Studies. JSSEAS-NIHU-MAPS Joint Symposium. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hayami, Yoko
2. 発表標題 Gendered Precarity and Ethics of Life in Aging Asia: VOices of Older Thai Women
3. 学会等名 6th Asian Association of Women's Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 木曾恵子
2. 発表標題 タイにおけるハッシュタグ・フェミニズムのうねりを感じルー地域を越えた『連帯』への足掛かりを求めて
3. 学会等名 国際ジェンダー学会2023年大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 片岡樹
2. 発表標題 タイの廟から日本の神社を考える
3. 学会等名 現代民俗学会第71会研究会シンポジウム
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計15件

1. 著者名 Keiko Tosa, Yukako Iikuni et.al.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Tokyo University of Foreign Studies Graduate School of Global Studies	5. 総ページ数 183
3. 書名 Anthropological Studies of CBO and NGO Activities in Myanmar	

1. 著者名 小林知（編著）高橋美和（分担）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 めこん	5. 総ページ数 400
3. 書名 カンボジアは変わったのかー「体制移行」の長期観察1993-2023	

1. 著者名 宮町良広 田原裕子 小林知 井口梓 小長谷有紀 編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 224
3. 書名 地域学ー地域を可視化し、地域を創る	

1. 著者名 酒井朋子 奥田太郎 中村沙絵 福永真弓	4. 発行年 2024年
2. 出版社 左右社	5. 総ページ数 288
3. 書名 汚辱のリズムーきたなさ・おぞましさの生活考	

1. 著者名 小林知（編著）高橋美和（分担執筆）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 めこん	5. 総ページ数 400
3. 書名 カンボジアは変わったのか 「体制移行」の長期観察1993～2023	

1. 著者名 宮町良広・田原裕子・小林知・井口梓・小長谷有紀編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 244
3. 書名 地域学 地域を可視化し、地域を創る	

1. 著者名 内藤直樹・石川登（編） 片岡樹（分担執筆）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 352
3. 書名 四国山地から世界をみる ソミアの地球環境学	

1. 著者名 酒井朋子、奥田太郎、中村沙絵、福永真弓	4. 発行年 2024年
2. 出版社 左右社	5. 総ページ数 288
3. 書名 汚穢のリズムーきたなさ・おぞましさの生活考	

1. 著者名 上田 広美、岡田 知子、福富 友子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 416
3. 書名 カンボジアを知るための60章【第3版】	

1. 著者名 Keiko Tosa, Yukako Iikuni et.al.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Tokyo University of Foreign Studies Graduate School of Global Studies	5. 総ページ数 183
3. 書名 Anthropological Studies of CBO and NGO Activities in Myanmar	

1. 著者名 MATSUO Mizuho, NAKAMURA Sae, and Kenta FUNAHASHI eds.	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 264
3. 書名 Life, Illness, and Death in Contemporary South Asia: Living through the Age of Hope and Precariousness.	

1. 著者名 AWAYA Toshie and Kazuo TOMOZAWA eds, NAKAMURA Sae分担執筆.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 362
3. 書名 Inclusive Development in South Asia	

1. 著者名 Kobayashi, Satoru (Eds.Gregory Mikaelian Siyonn Sophearith, Ashley Thompson)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Peninsule	5. 総ページ数 442
3. 書名 LIBER AMICORUM Melanges reunis en homage; in honor of Ang Choulean	

1. 著者名 小林知(編者・生方史数)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 共立出版	5. 総ページ数 258
3. 書名 森のつくられかた	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	片岡 樹 (KATAOKA Tatsuki) (10513517)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授 (14301)	
研究分担者	小林 知 (KOBAYASHI Satoru) (20452287)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高橋 美和 (TAKAHASHI Miwa) (40306478)	実践女子大学・人間社会学部・教授 (32618)	
研究分担者	木曾 恵子 (KISO Keiko) (80554401)	宮城学院女子大学・付置研究所・研究員 (31307)	
研究分担者	中村 沙絵 (NAKAMURA Sae) (80751205)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	
研究分担者	飯國 有佳子 (IIKUNI Yukako) (90462209)	大東文化大学・国際関係学部・准教授 (32636)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関